



故 細見 弘教授を偲んで

細見 弘先生は昭和11年10月4日、兵庫県に生まれ、昭和37年3月神戸医大卒業、インターン、外科学修業の後、同42年4月神戸大学大学院医学研究科入学、同46年3月同修了(医学博士)、昭和47年2月神戸大学医学部助手、同51年7月同助教授を務めた後、昭和56年4月開設2年目の香川医科大学医学部生理学講座第2生理学の初代教授として赴任されました。以降、創設の過渡期にあつて、生理学講座の設計、整備に努められ、教務委員会副委員長として、医学教育改革を積極的に押し進め、基礎配属、早期医学、研究医学等新制度の導入に尽力されました。また、大学院委員として大学院の発展・充実に務められ、入学者選抜法研究副委員長として、「入学試験の因子分析」に関する一連の研究成果を発表されました。これら一連の教育的貢献が認められ、平成7年度医学教育振興賞を受賞されました。しかし、平成8年2月18日香川には珍しい大

雪が降った日、喘息重積発作のため入院、翌19日志なかばにして、永眠されました(享年59歳)。

先生の研究

「生理学とは“logic of life”を追求し、注目する現象の因果関係を明らかにする学問である」という信念のもと、先生は生体をひとつのシステムと考え、生体レベルで現れる生理学のおよび病態生理学的現象の解析に尽力されました。この間、「生態情報のコンピューターを用いた解析」「血圧振動」「出血時の血圧調節」「血圧調節系の調節力評価方法」「出血性ショック時の血行動態」「各種生理活性物質の血行動態に及ぼす影響」「食塩吸収の制御機構」「食塩排泄の制御機構」「食塩感受性高血圧」等に関する多くの研究成果をあげられました。また、日本病態生理学会(平成4年)、日本生理学会(平成6年)、国際病態生理学会(平成6年)、

日中国際病態生理学学会(平成7年)等を主催されました。

先生の教育

細見 弘先生の学生に対する教育の根本に流れていたのは、学生に対する優しさであったと思います。この優しさを慕って、多くの教室に出入りしておりました。早朝の抄読会、早朝医学、研究医学、基礎配属等を通じて、彼等に対し、生理学的な研究活動に対するearly exposureを行い、教育改革を強力に押し進められました。先生は、学生と直接ふれあうこと、学生と一緒に研究することのうちに、血の通った教育の道を模索されていたように思います。

「観察した生命現象に基づき仮説を立てる、その仮説を証明するための実験計画を立てる、実験を遂行するための道具だてを工夫する、結果を予測し、実験を遂行する、そうして得られた結果を考察する。この過

程は、教官から学生への一方向の講義からは得られない多くのものを含んでおり、論理的な思考を身につける最も効果的な方法のひとつである」と語っておられました。

先生の真の偉大さは、測り知れない洞察力、知的好奇心、精神の広さと深さ、現在の教育・研究に対する深い憂慮感等にあったと思います。私達は、日々先生の精神の一端に触れ、勇気づけられ、啓発されてまいりましたが、先生が残されたお仕事を発展させることでお応えする所存です。衷心よりご冥福を祈念し、お別れの言葉と致します。

合 掌 (平成8年3月11日)

香川医科大学生理学講座 畠 瀬 修
森 田 啓 之